

栗駒山の火山活動解説資料（平成 24 年 2 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラでは、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3～4）

栗駒山を震源とする火山性地震は少ない状況が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山の近傍では、2008 年 6 月 14 日に発生した「岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図 5～6）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

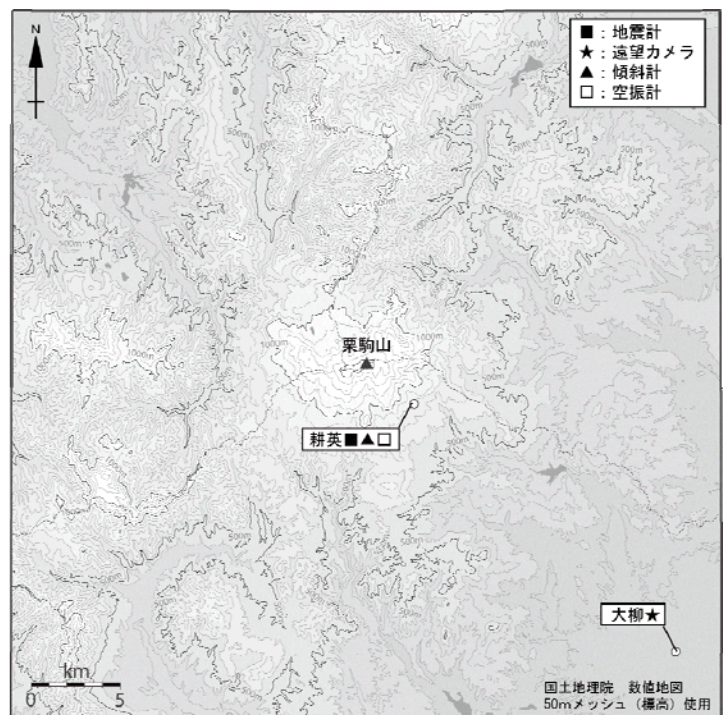


図 1 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 3 月分）は平成 24 年 4 月 9 日に発表する予定です。

※この記号の資料は、気象庁のデータその他、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。



図 2 栗駒山 遠望カメラの映像（2 月 22 日 10 時 00 分頃）
大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる。
左上に映っているものは、カメラを設置している建物の工事の足場です。

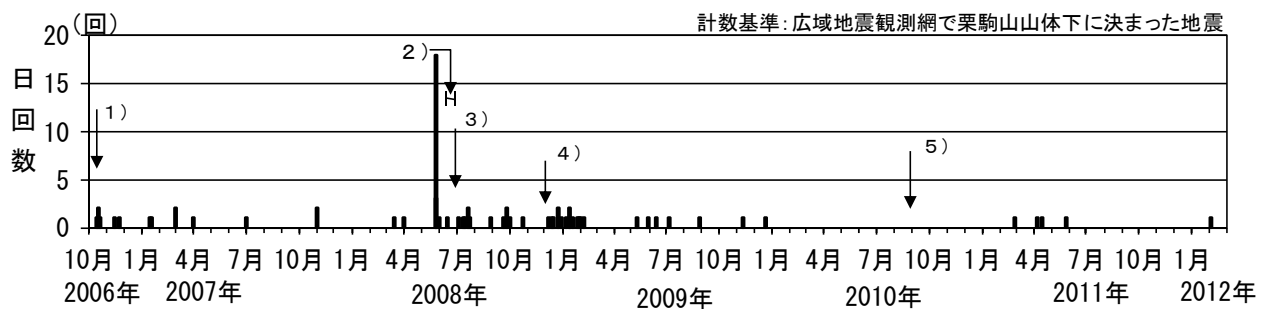


図 3※ 栗駒山 日別地震回数（2006 年 10 月～2012 年 2 月）

- 1) 2006 年 10 月 12 日から旧耕英観測点（山頂から南東約 4 km）で観測開始。
- 2) 2008 年 6 月 14 日から 7 月 2 日 18 時まで「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- 3) 2008 年 7 月 2 日 18 時から小安（おやす）観測点（山頂から北西約 10km）で監視を開始。
- 4) 2008 年 12 月 4 日から旧耕英観測点が観測再開。
- 5) 2010 年 9 月 1 日から耕英観測点（山頂から南東約 4 km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測開始。

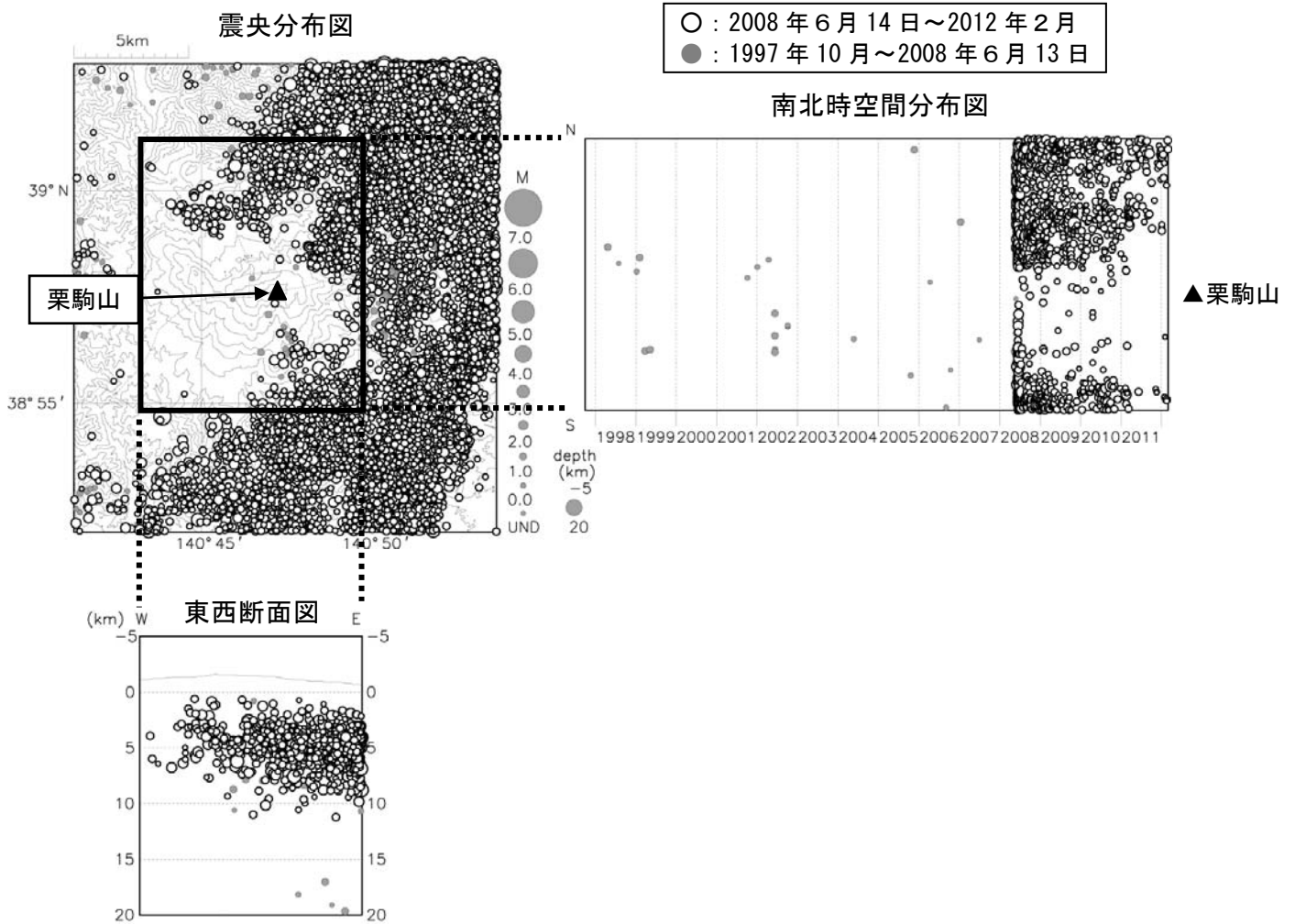


図 4※ 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2012 年 2 月）

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を示します。

図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

2011 年 3 月 11 日以降、東北地方太平洋沖地震の活発な余震活動により、小規模な地震を検知できない期間があります。

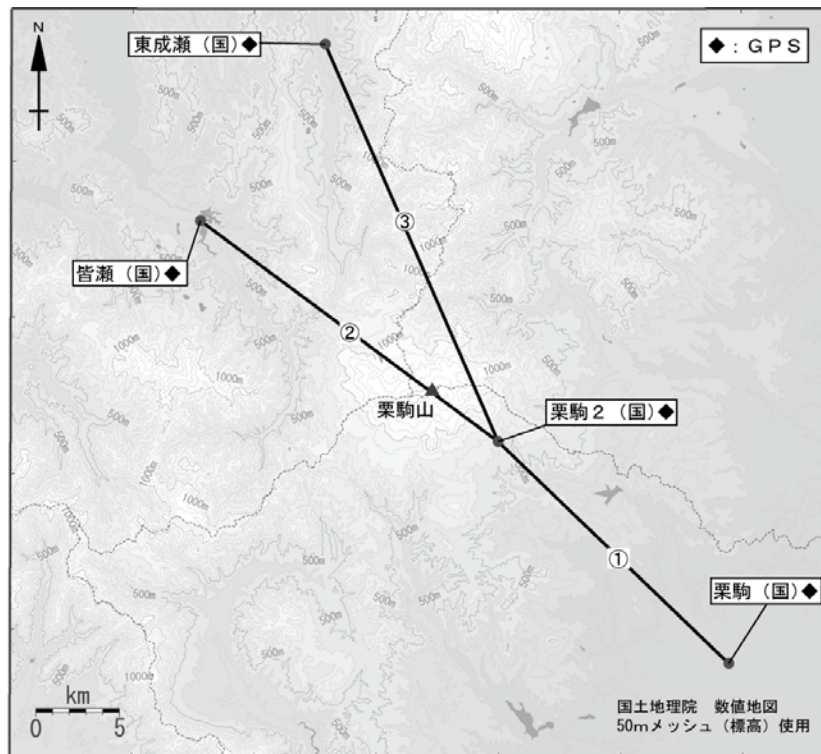


図 5 栗駒山 GPS 観測点配置図

小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(国)：国土地理院
GPS 基線①～③は図 6 の①～③に対応しています。



図 6※ 栗駒山 GPS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2012 年 2 月)

2011 年 3 月 11 日以降の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。

①～③は図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を表しています。

※ 1：2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響による